

2年間で5mm身長が縮んだだけでも死亡リスク上昇—日本の研究から

骨粗鬆症や椎骨骨折、椎間板の変形、脊柱後湾症などにより身長は短縮する。長期間での顕著な身長短縮と心臓血管病の関連はこれまでに報告されている。本研究では、短期間でのわずかな身長短縮と死亡リスクの関連について、日本の特定健診研究のデータを用いて縦断的に検討した。

2008年と2010年の特定健診受診者222,392例（男性88,285例、女性134,107例）を対象に平均4.8年観察した。期間中に1,436例が死亡した。身長短縮が2年間で5mm以上の群と5mm未満の群に分けて解析を行った。結果、男女ともに身長短縮が5mm以上の群は5mm未満の群と比べ全死因死亡のリスクが26%有意に上昇することが示された（調整ハザード比1.26）。

したがって、2年間でわずか5mmの身長短縮でも全死因死亡リスクと関連することが明らかとなり、身長の変化が死亡リスクを層別化して評価するために役立つ可能性が示唆された。

出典：Scientific Reports. 2023; 13(1): 3593.